

TECHNICAL DATA

種 類	欠損部補修用 早強一材型ポリマーセメントモルタル
商 品 名	J S プレミックス 70 (カチオン)

改訂版数 :	第9版
--------	-----

DATE : 2023. 4. 1



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 種類：欠損部補修用早強一材型ポリマーセメントモルタル
- 商品名：JSプレミックス70（カチオン）
- 用途：コンクリート・モルタル等の欠損部充填補修用
- 適用下地：コンクリート・PCパネル・セメントモルタル等
- 部位：内外部の壁面・床面・柱・梁等
- 工程

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (20℃)	所要量
吸水調整	スタックプライマー#3 主材：18kg 清水：54～72L	ウールローラー 水性刷毛等	1	1以上	450～900m ² /18kg缶 0.10～0.20kg/m ² (5倍液として)
充填補修	JSプレミックス70 (カチオン) 粉体：20kg 清水：5～6L	金ごて	1以上	24以上	約15.5kg/m ² (約10mm厚、混練水を含む) 約1.64m ² (約10mm厚) 混練比重：約1.55kg/L 練り上り容量：約16.4L

● 施工上の要点

- (1) 欠損部の脆弱部を除去し、汚れ及び付着物は研磨紙、布及び水洗い等により除去して下さい。
- (2) 鉄筋が露出している場合は、スクレーパー、ワイヤーブラシ、研磨紙等により錆を除去し、錆止め処理をして下さい。
- (3) 吸水調整として、スタックプライマー#3の希釈液を塗布してください。
- (4) 材料の調合は、清水5Lに粉体20kgを徐々に加え、ハンドミキサーで均一に3分以上混ぜ合わせて下さい。その後、必要に応じて、0～1Lの清水で軟度調整してください。
- (5) 調合後の可使時間は、1時間以内(20℃)です。
- (6) 工法はコテ塗りとし、初めにコテ圧を掛けて塗り付け、最後に所定厚みに塗り付けて下さい。
- (7) JSプレミックス70（カチオン）の1回の塗り厚60mm以下です。それ以上厚塗りする場合は数回に分け、クシ目（ハケ目）を入れ硬化状態を見ながら塗り重ねて下さい。
- (8) JSプレミックス70（カチオン）を塗る施工面が、60mm以上あるいは0.25m²以上ある場合は、アンカーピン、ステンレス線、メッシュ等を併用して施工して下さい。
- (9) JSプレミックス70（カチオン）の標準塗厚は3～60mmです。
- (10) JSプレミックス70（カチオン）の上に仕上材等を施工される場合、JSプレミックス70（カチオン）塗り付け後、春・夏・秋期は3日間以上、冬期は7日間以上養生してください。
- (11) JSプレミックス70（カチオン）施工後にアンカーピン等を打つ場合、JSプレミックス70（カチオン）塗り付け日の翌日以降に実施してください。（冬期は翌々日以降）その際、塗り付け材料が十分に硬化していることを確認して下さい。（表面に爪痕が残らないこと）

● 注意事項

- (1) 気温が5℃以下の場合は施工を避けて下さい。
- (2) 強風及び降雨、降雪の場合又はそれらが予想される場合は施工を避けて下さい。
- (3) 湿気や水掛かりに注意して保管して下さい。

組 成 表

種 類 再乳化形ポリマーセメントモルタル

商 品 名 JSプレミックス70 (カチオン)

荷 姿 (吸水調整材) スタッコプライマー#3 NET 18kg/缶入
 (欠損部補修材) JSプレミックス70 (カチオン) NET 20kg/袋入

組 成

● スタッコプライマー#3

内 容	重 量 (%)
エチレン・酢酸ビニル樹脂エマルジョン	45 ~ 46
清 水	54 ~ 55
計	100

● JSプレミックス70 (カチオン)

内 容	重 量 (%)
早強ポルトランドセメント	50 ~ 55
骨材 (珪砂等)	45 ~ 50
再乳化形粉末樹脂 (カチオン・アクリル系)	1 ~ 2
その他添加剤	1 ~ 2
計	100

性能試験成績書 (その1)

種類	欠損部補修用軽量骨材ポリマーセメントモルタル (一材型)		
商品名	JSプレミックス70 (カチオン)		
供試材料	JSプレミックス70 (カチオン)		
試験方法	建築改修工事管理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修) 第4章-外壁改修工事、7節-鉄筋コンクリートの鉄筋腐食の補修 「断面修復用ポリマーセメントモルタルの品質基準(案)」の試験方法に準拠		
試験項目	単位	規 格	結 果
単位容積質量	—		1.55
曲げ強さ	N/mm ²	6.0 以上	6.2
圧縮強さ	N/mm ²	20.0 以上	24.4
付着強さ	N/mm ²	標準養生 : 1.0 以上	1.38
		温冷繰り返し後 : 1.0 以上	1.29
吸水量	g	20 以下	10.8
透水量	ml/h	0.5 以下	0.45
長さ変化率	%	0.15 以下	0.146
<p>※ 結果数値は試験値であり品質保証値ではありません。</p> <p style="text-align: center;">—以下余白—</p>			

性能試験成績書 (その2)

種 類	欠損部補修用軽量骨材ポリマーセメントモルタル (一材型)		
商 品 名	J Sプレミックス70 (カチオン)		
供 試 材 料	J Sプレミックス70 (カチオン)		
試 験 方 法	建築改修工事管理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修) 第4章-外壁改修工事、2節-材料 「欠損部充てん用ポリマーセメントモルタルの品質基準(案)」 の試験方法に準拠		
試 験 項 目	単 位	規 格	結 果
単位容積質量	—		1. 5 5
だ れ	mm	下がり量 : 5mm以内	0
	—	表面状態 : ひびわれの発生がないこと	異常無し
曲げ強さ	N/mm ²	5. 8 8 以上	6. 2
圧縮強さ	N/mm ²	1 9. 6 以上	2 4. 4
接 着 強 さ	N/mm ²	標準時 : 0. 9 8 N/mm ² 以上	1. 4
		湿潤時 : 0. 7 8 N/mm ² 以上	1. 0
		低温時 : 0. 4 9 N/mm ² 以上	1. 1
透水性	—	裏面のぬれ、水滴の付着がないこと	異常無し
※結果数値は試験値であり、品質保証値ではありません。 —以下余白—			

一般的な注意事項

《下地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分に行ない、含水率 10%以下、pH10 以下で施工してください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

《環境》

- 夏期など、特に気温が高い場合や下地の吸い込みが著しい場合はドライアウトの原因となります。適当な水湿し、または下塗りを行ってください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 表面に白華が発生した場合はブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- 溶剤形の下塗を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 製品は、湿気に注意し、水がかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管してください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS (安全データシート：旧 MSDS) を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 取扱い中は、粉じんがたたないように注意し、また、取扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり危険です。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようになしてください。